

はじめに

2009年度、東海大学は全学を挙げて、一年間にわたる総点検を行いました。その結果を『自己点検・評価報告書』にまとめ、『大学基礎データ』、『添付資料』とともに、国公立大学を会員校とする評価機関である財団法人大学基準協会に提出し、2010年度の実地視察と併せて認証評価を受審致しました。その結果、大学基準協会より2011年3月30日付で同協会の大学基準に適合していることを認定する旨の通知を受けることができました。

『東海大学教育研究年報』（以下、年報）は、認証評価を受審した際に作成した自己点検・評価報告書を基本に、当該年度における自己点検・評価活動を2009年度の活動結果とあわせてまとめましたので、ご報告致します。

なお、本学における自己点検・評価活動は、学部等の評価委員会が中心となって実施しておりますが、さらにその結果を大学評価委員会において総括的に確認の上、『年報』として編集しております。

また、より見易く、活用しやすくするために、2008年度版年報より、「本編」「大学基礎データ」「資料編」「研究業績目録」の四編に分けて編集致しました。「自己点検・評価報告書」以外では、報告を裏付けるための基礎データを載せており、教員一人当たりの「平均授業時間数」や学生の「副専攻科目履修状況」、「単位互換・認定状況」、「学位取得状況」、「学生による授業アンケート結果概要」などの教育関係の資料に加え、東海大学の研究活動についても研究費の全貌とともに明らかにしております。

その他「入試状況」「就職状況」「シンポジウム・公開講座」等、本学に関する多くの情報を掲載するとともに、「付属病院」「海洋調査研修船」などの運用状況や、大学の「財務」概要についても触れております。なお、本学諸活動を分かり易くまとめるという意味合いから、これらの数値資料はグラフ化する等、より多くの方にご理解いただけるよう努めております。

このような形での情報公開は大学にとって当然の責務であり、現代における大学のあり方を考える上で極めて重要な取り組みであると思います。『年報』の編集作業は我々に過去の活動に対する反省を迫るものであると同時に、将来の大学運営に指針を与えてくれるものでもあり、PDCAサイクルを機能させるための重要な業務であります。

現在、大学は国際的な視点から評価され、その存亡が問われるという厳しい状況に置かれております。皆様方におかれましては是非この『年報』にお目を通していただき、忌憚のない御意見、御叱声をお寄せ頂ければ幸いです。

東海大学学長

高野 二郎